

2010.9.21 文責 桑江良明

日本技術士会 原子力・放射線部会

日本原子力学会 共催

第2回「技術士の集い」 概要報告

○日時：平成22年9月16日（木）12：00～13：00

○場所：北海道大学工学部情報科学研究科棟 A-13 講義室

（2010年日本原子力学会秋の大会J会場）

○参加者：20名

○配布資料：

原子力・放射線部会の活動報告

部会の今後の活動計画

○内容

1．挨拶

(1)開会挨拶 林克己部会長（座長）

今年3月の春の年会（茨城大学）に続き、第2回「技術士の集い」を開催する。本「集い」の目的は、普段中々顔を合わすことが難しい会員が集まり意見交換を行うことであり、学会の年会・大会に合わせて今後も継続的に開催する。ここから新たな部会活動のキッカケが生まれることを期待する。

(2)「開催にあたって」 工藤和彦 九州大学教授

受験者数が減った年度もあったが今年度はまた若干持ち直したようで少し安心している。昨年度の二次試験の合格率が例年に比べ低下したが、出題内容等の分析から、もし、問題点等お気付きの点があれば指摘してほしい。今後の改善に活かしていきたい。

2．原子力・放射線部会の活動報告（中野智仁 幹事）

配布資料に基づき、部会のこれまでの足跡、部会組織の現状、および部会活動状況について報告があった。報告内容に対応する部会HP画面や懐かしい写真の紹介を織り交ぜながら進められ、全体を通じて、中野幹事の「合格発表の日を忘れるな」という熱いメッセージに合格したときの熱意と気概を思い出してほしいという気持ちが込められていた。最後に、「あなたは技術士として『何ができますか。』『何をしますか。』『何をすべきですか。』」と問いかけ、これからの部会の発展と躍進のためには、会場の皆様ひとりひとりの協力が必要不可欠であるとのお願いがあった。

3．部会の今後の活動計画（市川禎和 幹事）

配布資料に基づき、部会の今後の活動計画が報告された。基本的にはこれまでと同様、「(1)制度活用の具体化」「(2)技術士数の確保」「(3)継続研鑽」「(4)広報活動」を4本柱として活動を進めていく。

(1)「制度活用の具体化」については、

- ・問題点抽出と対策を検討し、原子力関連政策や関係機関へ提案していくとともに、雑誌・学会誌、部会報等を活用し情報を発信していく。

- ・原子力学会と連携し検討の加速を図る。

等が報告された。

(2)「技術士数の確保」については、

- ・関係組織へのキャラバン、各大学への PR を強化するとともに、新たに、修習技術者や技術士補を対象とした指導や講習会開催を企画する。

- ・HP での情報提供や雑誌への試験解説記事等掲載は継続して実施する。

等が報告された。

(3)継続研鑽、(4)広報活動については、これまでの活動を継続・強化し実施していくと報告された。

さらに、既発行の部会報「巻頭言」からの抜粋として、各オピニオンリーダーが抱く「原子力・放射線部会への期待」が紹介された。今後の部会活動の指針となるものとする。

4．意見交換（進行：佐々木聡 幹事）

佐々木幹事から、「部会全体で取り組んでいる技術士制度活用の実現に向けた活動の成果を待つだけでは、その活用策の一つができて、やはり利用できる人とできない人はどうしても生まれてしまう。実は、一人一人の活動として既にできることやそのような活動をしたいと思っている人は多いはず。人の評価ではなく自ら価値を見いだしてみませんか？その熱意が技術士の魅力を伝える最大の口コミ PR である。こんなことなら、協力できる、参加したいというヒントをくれませんか？」との趣旨から、「いぶし銀」ではダメですか？というユニークな意見交換テーマが示された。原子力機構内で試験解説記事の原稿執筆希望者を募り調整した自らの経験や、昨年 11 月例会「技術士個人活動事例紹介」等から発想したという。

このテーマに関して以下の意見交換がなされた。

- ・部会全体の活動として技術士制度活用を目指すことが重要であることは間違いない。それと並行して、「技術士」という個人資格を直接/間接に利用し、既に個人で活動している事例を紹介し合う、という趣旨で昨年 11 月の例会を実施した。始めはなかなか事例が集まらなかったが、個別に当たって収集した結果結構な数の事例が集まった。このような活動事例を部会員に示して活動を促すことも重要と考える。

- ・当社では技術士はまだ 1 名であるが、第一次試験合格者は約 20 名となり、技術士資格に対する理解も少しずつ広がっているようだ。社内教育担当として再任用されたが、多少なりとも技術士資格が影響しているのではないかと思う。教育を行なう際の意識の面で技術士資格は役に立っている。

- ・同感である。私も社内で安全文化等の講師を務めているが、「正論」を言えるように意識が変化したのが技術士となった効果だと思う。そのような意識の変化による効果をどのように説明するかが課題。

- ・技術士となることによって、技術的面でも「正論」を言わなければいけないと意識するようになった。また、技術士全国大会の参加経験から、技術士会内部において他部門技術士の「原子力」に対する誤解を正していくことも重要な使命と考える。
- ・技術士としての活動や意義は未だ見出せていない。
- ・業務として、小中学生や一般の人への原子力に関する授業や相談業務を行っている。また、職員の家族も含めて、啓蒙活動が必要と認識している。原子力は怖い物との認識がまだまだあるようだが、説明においては、技術士の名前の効果を感じる。

5 . 所感

2 回目の開催となった今回は、部会活動に関する説明に加え、テーマを設定しての意見交換を行うことにより、一時間という短い時間ではあったが有意義な場となったと思う。次回以降も首都圏中心の活動となりがちな部会活動に地方からの参加を促す「集い」となることを期待する。

以上